



## 飛騨市議会の概要

議員定数 14人

常任委員会名等	定数	所管事項
総務常任委員会	7人	総務部、企画部、市民福祉部、病院管理室、会計事務局、教育委員会、消防本部、選挙管理委員会、監査委員、固定資産評価審査委員会の所管に関する事項及び他の委員会の所管に属しない事項
産業常任委員会	7人	環境水道部、農林部、商工観光部、基盤整備部、農業委員会の所管に関する事項
議会運営委員会	6人	
広報広聴特別委員会	7人	
議員定数等特別委員会	7人	

## 飛騨市視察目的

飛騨市は、空き家対策に以前から取組まれており、先進地としての実績もあるため、本市も今後間違いなく空き家の増加が予測出来ることから先進事例を学ぶための視察である。

## 飛騨市視察概要

10月3日(月) 13:30 ~ 飛騨市役所にて

最初に飛騨市の概要説明に続き、飛騨市空家等対策について“第2次飛騨市空家等対策計画”に基づき、空家の現状等、空家に関する課題、飛騨市における空家等対策を総務課、総合政策課、都市整備課の担当者から順次事例を交え説明を受けた。

以上の様な説明後、事前質問の答弁、質疑及び意見交換が行われた。

## 飛騨市視察所感

過疎が進む自治体の1つとして、現実の問題を誠実に受け止め、早くから飛騨市全体の課題に行政、市民が一体となって取り組んでこられた成果であると感じ取れた。空家対策を一括りにするのではなく、細かく分析をし対策がなされている。

市内に現存する空家数を把握し、まずは増やさない対策をされ、窓口を設け所有者に成りえる市民に寄り添った細かな対応がされている。

主となる対策は、空家バンクを飛騨市の実情に合わせて活用し、空家の利活用がされ、移住者にも移住促進補助金が充実しており、移住者からは好評であるとのこと。

また、特定空家に関しても行政が地道に時間と労力使って除去に至る結果をだされて

いて、その中でも特に注視すべき点は行政だけでなく、行政区（自治会）も主となり積極的に空家対策に協力されている点でした。

空家の所有者となる人、行政区が主として取り組む場合でも“飛驒市空家除却補助金制度”を充実させ、不要な空家の取壊しを支援している。

本市も、間違いなく今後空き家の増加が予測出来る事から、飛驒市同様な特色ある空家バンクの活用と同時に、移住促進補助金充実と特定空家に対して空家除去補助金制度の充実を本市でも早期に取り組むべきであると意見が集約された。



## ② 10月4日（火）岐阜県高山市

### 岐阜県高山市の概要

高山市は、岐阜県の北部、飛騨地方の中央に位置し、周囲を飛騨市、下呂市、郡上市、大野郡白川村、長野県、富山県、福井県、石川県に囲まれています。

高山市は、東西に約81km、南北に約55kmあり、面積は2,177.61km<sup>2</sup>の日本一広い市です。面積の約92.1%は森林で占められ、山や川、溪谷、峠などで地理的に分断され、標高差も2,000mを超えるなど、地形的に大きな変化に富んでいます。

北東部には槍ヶ岳、乗鞍岳、穂高連峰などの飛騨山脈（北アルプス）を擁し、中央部には宮川が南から北へ流れ、南部には飛騨川が北から南へ流れ、南西部には庄川が南から北へ流れています。

標高の最高は奥穂高岳の3,190m、最低は上宝町吉野の436mです。

【本庁所在地：東経137度16分、北緯36度09分、海拔573m】

人口（令和4年8月1日現在）

総人口	男	女	世帯数
84,771人	40,522人	44,249人	36,026世帯

令和4年度予算総額は、一般会計477億円、特別会計212億6,680万円、企業会計91億5,070万円。総額781億1,750万円。

### 高山市議会の概要

議員定数 24人

常任委員会名等	定数	所管事項
総務環境委員会	8人	企画部、総務部、財務部、環境政策部、支所の企画部・総務部・財務部及び環境政策部関係、会計室、消防、選挙管理委員会、監査委員、公平委員会、固定資産評価審査委員会の所管に関する事項及び他の常任委員会の所管に属さない事項
福祉文教委員会	8人	市民活動部、福祉部、市民保健部、支所の市民活動部・福祉部及び市民保健部関係、教育委員会の所管に属する事項

産業建設委員会	8人	農政部、林政部、商工労働部、飛騨高山プロモーション戦略部、建設部、都市政策部、水道部、支所の農政部・林政部・商工労働部・飛騨高山プロモーション戦略部・建設部・都市政策部及び水道部関係、農業委員会の所管に属する事項
議会運営委員会	12人以内	
広報広聴委員会	8人	
産業廃棄物最終処分場計画調査特別委員会	9人	

### 高山市視察目的

高山市は、JR高山駅の“橋上駅舎化及び自由通路整備事業”と“東西口駅前広場整備事業”が完了し、供用開始から6年余りが過ぎており、当市の事業と比較的類似する点が多い事から参考にすべき点を学ぶための視察である。

### 高山市視察概要

10月4日(火) 9:30 ~ 高山市役所及びJR高山駅にて

最初に高山市の概要説明に続き、“高山駅周辺のあゆみ”を基に担当者より説明を受け、その後事前質問に沿って答弁と説明を受けた。

以上の様な説明と答弁後、質疑及び意見交換が行われた。

最後に、JR高山駅にて東西口駅前広場と橋上駅舎及び自由通路の説明、確認及び質疑が行われた。

### 高山市視察所感

JR高山駅の“自由通路新設及び橋上駅舎化事業”と“東西口駅前広場整備事業”が議会において全員一致で可決された事業であることに、委員は先ず驚きました。次に、反対運動も起こらず市民も待ち望んでいた事業であったこと。強いて言えば、旧駅舎を残せないかと言う事で、結果JRの所有であった事と良案が示せなかった事で残すことが出来なかったが、以前から使用していた駅のロゴは新駅舎にも引き継がれている。

駅は市の玄関であるとの考えで、来訪者が街への期待を膨らませると同時に、良い印象を持ってもらう重要な空間と考えている。

また、市民からは鉄道による東西の分断が自由通路で解消された事、東西に出入口が出来た事により駅前の主要道路の渋滞が緩和された事、駅前広場に送迎スペースが確保され送迎渋滞も解消された事などから好評であるとの説明を受けた。

事業費に関しても、橋上駅舎化事業に約 20 億円、東西自由通路事業に約 16 億円、移転補償費等に約 6 億円で合計約 42 億円。東西口駅前広場整備費に約 13 億円で、本市と同様に総額にすれば、約 55 億円となる。しかし、高山市は駅周辺整備事業（事業費約 131 億円）の中の一事業と捉えている。また、国庫補助金以外の高山市負担分財源は都市計画税と基金を充当し起債はしていない。

本市も、これから事業が本格的に進んで行く中で、やはり駅前整備計画の全貌を市民に示して行く事の大切さを改めて認識できた。また、議会も今後特別委員会の設置も視野に入れて行くべきではとの意見もあり、検討して行く事で意見が集約された。

